

第5学年 国語科学習指導案

児童 5年4組 30名

指導者 藤原 充利

- 1 単元名 論の進め方の工夫を見付けながら読み、考えたことを伝え合おう

学習材名 『固有種が教えてくれること』（光村図書5年）

2 単元構想

（1）児童について

児童は、説明的な文章「見立てる／言葉の意味が分かること」の学習で、「事例」や「理由や根拠」、「論の展開」に着目しなら読み取る学習を行い、説明文の内容を捉える力を身に付けてきた。また、筆者の主張を捉え、キーワードを基に文章の要旨をまとめる活動も経験している。

筆者の主張と事例の関係を捉えたり、文章と資料を対応させながら読んだりする学習経験はある。しかし、文章全体を俯瞰的に見て、筆者が自分の主張を読み手に伝えるための論の進め方について考える学習は未経験である。

そこで本単元では、筆者の説明の進め方の工夫に着目して読み進めることを通して、必要な情報を見つけたり論の進め方について考えたりする力を育てていきたい。

（2）学習材について

本単元で育成を目指す資質・能力は、読むことC（1）ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること」である。

『固有種が教えてくれること』は、固有種が住む豊かな日本の自然環境を守ることの大切さを述べた双括型の文章である。この学習材は、伝えたいことが明確になるように、まず全体像を示し、次第に筆者の主張の根拠となる具体例に焦点化する論の進め方になっている。島国同士の比較や固有種の数と森林の面積の変化などの事例では、対比によって課題を浮き彫りにしている。論の中で使われている具体例や資料では、数値が明確に示され、読者が客観的に課題を捉えられるように書かれている。論の進め方の工夫を見付けながら読むことで、筆者の主張の説得力が増すことを実感できる学習材である。

（3）指導にあたって

本単元の学習を進めるにあたり、次の点に留意して指導する。

視点① 教科等の本質的な活動の設定

論の進め方の工夫を捉えることができるようにするために、「筆者の論の進め方の工夫を見付け、考えたことを伝え合う」という言語活動を位置付ける。児童は、筆者の主張とそれを支える根拠との関係に着目し、資料を一つ一つ独立したものとして捉えるのではなく、文章と資料とのつながりや、資料を用いる順序・位置、それらが筆者の主張にどのようにつながっているのかを考える。その上で、「どのような論の進め方になっているのか」「どうして筆者はこのように論じているのか」などについて、互いの考えを伝え合うことで、論の進め方について自分の考えを深められるようにする。

視点② 自分をみつめる支援

身に付けた力と単元のつながりを自覚し、学習の見通しをもてるように、単元の導入では、前単元までの学びを掲示で可視化し、シートにつなかりをまとめる活動を設定する。単位時間の導入においては、掲示や前時の振り返りを基に本時の学びにつなげられるようにする。

深まった学びや学び方のよさを自覚できるように、単位時間の終末に「①学び方のよさ②学んで分かったこと③これから生かしたいこと」の視点から活動に合わせて振り返りをする。振り返りを共有することで考えを広げ、次の時間や他教科、日常で生かす手がかりとする。

学びによる考えの深まりを自覚できるように、単元の終末に、蓄積した振り返りを見返す場面を設ける。また、全体で共有した学び方は、掲示に位置付け、可視化する。

視点③ 思考を促し学びをつなぐ支援

論の進め方の工夫について考えをもてるように、前単元の学びで作成した文章構成図を掲示し、論の進め方について比べよう促す。

互いの考えを交流する場面では、視点に合わせ、自分の考えとの共通点や相違点に着目するよう促す。

3 単元の見どころ

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) ア
- 目的に応じて、文章と図表やグラフなどを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ウ
- 事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ア
- 言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1) ウ) ②「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C(1) ア)	①粘り強く、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして、筆者の説明の工夫を見付け、考えたことを伝え合おうとしている。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○環境問題について意見文を書く必要感をもち、そのために何が必要か見通す。 ・学習計画を立てる。		
二	2	○文章の構成や内容の大体を捉えて、要旨をまとめる。	・文章構成図を示すことで、双括型の文章構成と中の役割に着目することができるようにする。 ・段落ごとの工夫を明らかにすることで、広い範囲の説明から、焦点化した説明になっていることに着目することができるようにする。	○〔思考・判断・表現②〕 <u>記述</u> ・筆者の考えと事例の関係を捉えて要旨を把握しているかの確認
	3	○文章と資料を結び付けながら事例を読み取る。 ・地理の比較 ・日本列島の成り立ち ・気候と地形 ・現状	・文章と資料を関連付けたり比較したりしながら、事例を捉えることができるようにする。	・〔思考・判断・表現①〕 <u>発言・ワークシート</u> ・文章と図表の結び付きや、資料の効果を捉えているかの確認
	4	○文章と資料を結び付けながら事例を読み取る。	・グラフの推移に着目し、森林の面積の変化と捕獲数のバランスの関連性を捉えることができるようにする。	・〔知識・技能①〕 <u>発言・ワークシート</u> ・文章と資料を結び付けているかの確認

	5 本時	○筆者の論の進め方の工夫について自分の考えをまとめ、伝え合う。	・文章構成図を基に、資料、対比、原因と結果等の論の進め方の工夫について自分の考えをもち、交流を通して深めたり広げたりすることができるようにする。	○〔思考・判断・表現①〕 <u>発言・記述</u> ・文章の構成や筆者の主張を支える事例を基に、論の進め方の工夫について考えているかの確認
三	6	○総合的な学習の時間のテーマである「SDGs」に関して自分の選んだ本を読み、論の進め方の工夫について考えたことを伝え合う。	・これまでに学んだ論の進め方のよさを視点に、自分が選んだ本の論の進め方のよさについて交流することができるようにする。	○「主体的に学習に取り組む態度①」 <u>発言・記述</u> ・論の進め方の工夫について見付け、考えたことを伝え合おうとしているかの確認

6 本時の指導（5／6時）

（１）目標 事例の挙げ方と筆者の主張を関係付けながら、論の進め方の工夫について考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（２）展開

段階 時間	学 習 活 動 ☆思考方法	発問と予想される児童の反応 (◎主発問 ○発問 ・反応)	考えを深めるための手立て 評価
導 入 5 分	1 前時までの学習を想起する。	○「固有種が教えてくれること」で、筆者が一番伝えたいことは何でしたか。	・ 前時の振り返りを基に説明の進め方を意識することができるようにする。 (視点②)
	2 本時の課題と学習の流れを把握する。		
	主張を伝えるために、どのように論を進めているか考えよう。		
	3 課題解決の見通しをもつ。		・ 前単元において作成した文章構成図を掲示し、文章全体の構成の仕方を想起できるようにする。 (視点②)

展開 32分	4 課題解決をする。 (1) 論の進め方についての自分の考えをもつ。 ☆関係付ける (2) 考えを交流する。 ・グループ ・全体 (3) 深めた自分の考えをまとめる。	◎論の進め方の工夫だと思うところを、ノートに書きましよう。 ・「原因」と「結果」を用いた論の進め方。 ・固有種の説明から、自然環境を守る話へと、筆者の主張に迫る順番で説明している。 ・資料が文章をより分かりやすくするように書かれている。	・子どもたちの発言を板書に位置付け、着目点を明確にする。また、交流を通して考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (視点③) 〔思考・判断・表現①〕 発言・記述 ・文章の構成や筆者の主張を支える事例を基に、論の進め方の工夫について考えている。
	私は、対比を用いて事例を挙げる論の進め方が工夫だと思った。 友達と交流したことで、まず固有種についての説明から、固有種と自然環境とのバランスの重要性の話へと、だんだん筆者の主張にせまるような論の進め方も工夫の一つだということがわかった。		
終末 8分	5 学習を振り返る。 (1) 本時の学習を振り返る。 (2) 次時の学習の見通しをもつ。		・説得力がある文章のよさを実感するために、振り返りの視点を明らかにする。 (視点②)

(3) 本時の評価規準

事例の挙げ方と筆者の主張を関係付けながら、論の進め方の工夫について具体的に考えている。

〔思考・判断・表現〕

B	支援を要する児童への手立て
【目指す姿の具体例】 ・私は、対比を用いて事例を挙げる論の進め方が工夫だと思った。 友達と交流したことで、まず固有種についての説明から、固有種と自然環境とのバランスの重要性の話へと、だんだん筆者の主張にせまるような論の進め方も工夫の一つだということがわかった。	前時までの紙板書を基に、論の進め方の工夫に着目できるように促す。